

基礎学力試験
(問題) (国語)

2025年度

<R07190062>

注意事項

1. 問題冊子および解答用紙は、試験開始の指示があるまで開かないこと。
2. 問題は1～3ページに記載されている。問題冊子や解答用紙の印刷が不鮮明であったり、ページが抜けていたり、汚れていたりしている場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて解答用紙の所定欄にHBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. 受験番号および氏名は、試験が始まってから、解答用紙の所定欄(2か所)に正確に正しい数字に記入すること。

数字見本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

5. 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
6. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離さないこと。
7. 試験終了の指示がでたら、ただちに筆記具を置くこと。終了の指示に従わない場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

(一) 次の傍線部の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- | | | | |
|---|--------|---|--------|
| 1 | 悲哀を感じる | 2 | マッチを擦る |
| 3 | 水滴がつく | 4 | 旗を振る |
| 5 | 糖分をとる | | |

(二) 次の傍線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- | | | | |
|----|-------------|----|-------------|
| 1 | 徒歩ケンナイにある | 2 | ぞうきんをシボる |
| 3 | 雑貨をハンバイする | 4 | 客をマネく |
| 5 | ボケツを掘る | 6 | 事件のクロマク |
| 7 | テツボウで遊ぶ | 8 | ぐつすりアンミンできた |
| 9 | タギに打たれる | 10 | 心からアヤマる |
| 11 | タイネツガラス | 12 | ランパクを泡立てる |
| 13 | 美しいモヨウ | 14 | 情報モウが発達している |
| 15 | ニューウジの世話をする | | |

(三) 次の文章を読み、あとの問いに答えなさい。

本書では「技術を伝える」とはどういうことか、ということを経験的な角度から見えました。

この終章では、さらに視点を変えて、伝えられることで個人はどのように成長するのかということについて触れておきたいと思います。

最初は誰もがゼロからのスタートです。ですから決まったことを受け入れることから始まります。誰かから与えられたものをそのまま受け入れるというのは、基本的につまらないことです。そして、これが技術の伝達を妨げる一因になっていることは明らかです。

そして、それで学ぶことを放棄しては、そこから一歩も進めません。そのことは伝達される側の人たちにもよくわかっていると思います。

茶道や武道の世界には、「守・破・離」という教えがあります。これはその人のレベルに応じて、それぞれの段階でどのようなことを実践すべきかを示したものです。三つの段階を簡単に説明しておくと、「守」は決まった作法や型を守る段階、次の「破」はその状態を破って作法や型を自分なりに改良する段階、そして、最後の「離」は作法や型を離れて独自の世界を開く段階です。

一般的には、すべての学習は真似から始まります。手本に従ってそれと同じようにすることを求められるのです。これがまさに「守」です。

決められていることを生真面目に守るこの段階は、繰り返しも多く非常に面倒だし、なによりもやっているほうは面白くもありません。そのためそこで「I」を通して自己流でいきたがる人がいます。しかし、自分の土台をつくるためには、素直に手本を真似るほうが結果として早く進歩することが出来ます。

実際、初期の段階で我慢して手本の真似を徹底的に繰り返していると、そのうちに手本と同じようにやることの意義や、手本から外れたときに生じるデメリットが理解できるようになります。ここまできると「強制されて仕方なく守っている」というより、「自ら望んで守っている」という状態になります。やっていることの内容や価値を自分なりに理解しているので、自分の意思で率先して手本を守るようになるのです。

ところで、世の中にはこの状態で満足してしまう人がたくさんいます。そのような人は、当然のことながらそれ以上の進歩はありません。

本当に楽しいのはここからです。この段階まで来た人は、自分で創意工夫をしながらいろいろなことが試せるようになります。内容を理解しているため、従来の方法よりもっといい方法はないかと自分で探すことができるからで、そのような能力があるのに何もしないのはもったいないことです。

C この状態がまさに作法や型を破る「破」の段階です。基本的には、作法や型を手に入れた、そこからさらに出ようと意識して行動した人だけが進歩が続けられるのです。もちろん、このときの試行錯誤はしっかりとした経験と根拠に基づくものなので、初心者があてずっぽうで行動するのはまったく違います。決められた道から外れても、それによって致命的な失敗を犯す危険性は極めて低いし、むしろこのときの行動はより効率的で合理的な方法の創出につながる可能性も大です。

従来の作法や型を破るといえるのは、悪いことのように思えます。しかし、変化のあまりない業界ではともかく、現実の世界ではそのようにしなければいけない場面は意外にたくさんあります。

それは時代の変化とともに、周囲の条件の変化も必ず起こっているからです。こうした場合は従来の作法や型をそのまま使うことに無理が生じるわけですから、それに合わせて作法や型を変えていく

のはむしろ当然といってもいいでしょう。何より条件が変わっているのに従来の作法や型をそのまま使い続けていることのほうが、問題であり危険なことなのです。

いずれにしても、このようなⅡを何度も繰り返した人は、理解と経験に基づいてこれまでとはまったく別のものを自分の力で新たに生み出すことができます。これが最後の「離」の意味です。このレベルにある人は、従来の技術やシステムを常に効率よく運用できるだけでなく、制約条件の変化や外部からの新たな要求に合わせて全体をつくり変えることもできます。それゆえ「離」に到達した人は「優れた創造力の持ち主」とされているのです。

このレベルに達した人は、D設計者なら、図面をただでどこかおかしなところがあれば一発で見抜けたり、作業の担当者なら、作業をちよつと見ただけでそのおかしさに直感的に気がつくようになります。「離」の段階にある人は、このように創造の能力だけでなく、異変を一目で見抜く眼力を持っています。これは過去の経験や知識に加えて、先人の理解などを織り込んで判断ができるからです。

(畑村洋太郎『技術の伝え方』による)

問1 空欄Aに入るべき語句を次の中から選んで記号で答えなさい。

ア たとえば イ いわば ウ といえ エ そして

問2 傍線部1「破」はその状態を破って作法や型を自分なりに改良する段階」とあるが、なぜ「改良」が必要なのか。その理由を述べている三十字以内の箇所を本文中から抜き出して答えなさい。

問3 傍線部2「独自の世界を開く」とはどういうことか。それを述べている四十字以内の箇所を本文中から探し、その始めと終わりの五字を抜き出して答えなさい。

問4 空欄Iに入るべき最も適切な漢字一字を次の中から選んで記号で答えなさい。

ア 筋 イ 道 ウ 我 エ 論

問5 傍線部3「作法や型を手に入れて」とあるが、「作法や型を手に入れ」とはどういうことか。「こと」に続くように、本文中の語句を用いて三十字以内で答えなさい。

問6 空欄Ⅱに入るべき四字の語句を本文中から抜き出して答えなさい。

〔以下 余白〕

基礎学力試験（国語）

<2025 R07190062>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

<2025 R07190062>

受験番号	万	千	百	十	一
氏名					

(注意) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入してはならない。記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。

[illegible]

+	-

(三)

+	-

$(-)$
 $(-)$

$\frac{1}{2}$